

第4回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会ぬくもり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年8月27日(水) 18:30~20:00
- ◆ 開催場所 登別市役所2階 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 雨洗 康江
副部会長 田渕 純勝
部会員 今 順子
鎌田 和子
岩浅 眞純
松本 朋史 (市庁内検討委員会 部会長)
【保健福祉部次長】
吉田富士夫 (市庁内検討委員会 副部会長)
【保健福祉部子育てグループ総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 千葉 円哉
- ◆ 事務局 沼田総務部企画調整グループ総括主幹
西川原総務部企画調整グループ主査
- ◆ 議題 「第1章やさしさと共生するまち」の体系図検討(地域福祉とは)について

◎部会長

皆さんこんばんは。

本当は8月11日に開催する予定でしたが、延期となり、本日の開催となりました。

それでは、会議を始めたいと思いますが、本日も体系図について検討を進めます。また終了時間は、19時30分から20時を目途とします。よろしいでしょうか。

◎事務局

今回は、開催案内に同封した「登別市地域福祉計画」と、登別市社会福祉協議会(以下、「社協」という。)作成の「第2期登別市地域福祉実践計画きずな」を各自ご覧になっていただき、地域福祉の推進にあたり、地域福祉についての共有したイメージを持つこととしておりました。

まず、市から案として示させていただいた体系図では、「地域で共に支えあう」ことを地域福祉と言っています。

配布した計画などを参考に、地域福祉というのは細かく言うとどういうことなのか、何を目指しているのかということなどを皆さんで同じイメージを持ち、

高齢者、障がい者、子育て等の個別の施策なども全て地域福祉につながっているという整理をしたほうが良いのかなと思っていますがいかがでしょうか。

◎副部長

体系図で、「主な事務事業」の項目で斜線を引いているところがありますよね。

今、連合町内会（以下「連町」という。）や社協、市などが「小地域ネットワーク推進事業」という事業を進めています。

この斜線を引いているところに、この小地域ネットワークの事業が掲載されても良いと思っています。昨今の災害などの対応についても、この事業は重要な位置づけにあると考えます。

社協では、以前から小地域ネットワークというキーワードは使っていたのですが、その頃は、今のように地震や災害などはあまり問題にはなっておらず、身近な問題に対応する程度だったと思います。

現在は、災害時にどうやってお互いが助け合うのか、平時での地域の付き合いが、いかに大事かということ等が問われています。

それで、今、社協が中心となり小地域ネットワークを推進しようとしています。未来永劫、この事業を保つ必要があるのかはわかりませんが、少なくとも今後10年間の計画期間の中では、重要な事業だと考えます。

ですから、この事業を体系図に組み込む必要があるのではないかと考えます。

◎事務局

確認しますが、まず「主な事務事業」に記載している事業は、市で実際に予算付けしている事務事業を掲載しています。これは、計画の文言だけでは、実際にどのような事業を実施しているのか市民の方にイメージが付きづらいという考えから掲載しています。

簡単に言いますと、「地域福祉」を進めるために、予算がついて明確な事業名を持っているものを掲載しています。

この項目は、「地域福祉」という、どちらかという概念的な施策となっているため、具体的な事務事業というのは、今のところ明確な予算を持った事業はないということです。

小地域ネットワークについては、副部長のおっしゃる通り、推進すべき事業であると認識しています。この事業について、「主な事務事業」としては、②主要な施策の「社会福祉協議会補助金」ということになります。

◎副部長

体系図の「主要な施策の考え方」などに明確に記載するのはどうなのでしょう。

◎事務局

そうですね。「主要な施策の考え方」小地域ネットワークについての記載をすることはできると思いますので、検討したいと思います。

◎副部長

各部会員においても、今このような事業をそれぞれの立場で実行しようとしていることを共通認識として持っていただきたいと思います。簡単に言いますと、昔の「向こう三軒両隣」の考え方で、これからどう進めていこうかということが課題になっています。

◎事務局

庁内検討委員会の部会では、皆さんに配布した体系図と同じ資料を使って、並行して体系図の検討をしていますが、この項目で、小地域ネットワークの考え方などについて議論した経緯はありますか。

◎市庁内部会部会長

「主要な施策」の②「地域を支える仕組みづくりと福祉ネットワークの充実」の「主要な施策の考え方」の中で、「町内会ごとに地域住民が参加、協力して暮らせるように支援活動を行う小地域ネットワーク活動と支援し、その充実に努めます。」というような内容にしています。

総合計画の中では、具体的な表現までは難しいので、この程度の表現としています。

◎副部長

そうですね。この計画の中では、趣旨・概要での表現になると思います。

具体案などは、社協が中心となり進めていくことになるだろうと考えています。

◎事務局

皆さんにお示ししている体系図の2ページ目に障がい福祉に関する項目がありますが、その中に「ボランティアや福祉団体の育成支援」という項目があり、そこに小地域ネットワークについての記述があります。

庁内検討委員会では、小地域ネットワークという事業は、決して障がいのある方に限ったものではないという考えから、お示しした体系図では、ここに記載されていますが、地域福祉の項目に掲載するのが適当と判断したところです。

◎副会長

個別の福祉施策に記載するよりも、福祉全体を包含する地域福祉という項目に入るのであれば、良いことだと思います。

実際にこの事業に関わっている市民側として、庁内で小地域ネットワークを検討項目として、議論していただいているという話を聞いてうれしく感じます。

◎市庁内部会部会長

この事業に関わりのあるグループでは、小地域ネットワーク事業を中心に支援しながら、住みやすい地域を作っていこうと考えています。

◎副会長

市庁内部会部会長のおっしゃるとおり、この事業は横断的な事業であり、単に福祉だけの事業ではなく、防災なども関わってきます。

特に近年は、防災に関する部分が大きなウエイトを占めてきています。

文言的には、先ほど説明されたようなことが整備されれば良いと思います。

◎市庁内部会部会長

この事業は、行政が中心となって着手するのではないので、この活動を支援しますという表現になります。

◎副会長

小地域ネットワークについては、これからも社協と連町などで、どのように周知していくかなども検討する必要があると思いますが、この地域福祉という中では、この程度の整理で良いのかなと思います。

◎部会員

私は少し疑問に思っていることがあるのですが、現代は、市だけではなく、NPOや市民団体など民間の力も大事になってきています。民間の方は、熱意と努力で頑張っていると思いますが、実態は非常に厳しい経営状況や、市民の困りごとについても行政に伝わっていないのではと感じています。

そのような民間で頑張っている人たちを、市は何か評価するような仕組みが大事だと思うのですが、これまではそのような仕組みが何もなかったんだと思います。

体系図などとは少しずれてしまっていますが、市が市民に応援を求める場合に、ただ「お願いしっぱなし」というのはどうなのかという気がしてなりません。その点についてはどのようにお考えでしょうか。

◎事務局

市がやるべき業務は、市がしっかりやるべきだと思います。しかし、それを越えた部分については、単純に民間や市民がやれば良いというものでもなく、どうしていけばよいのかということを検討していかなければいけないと思います。

それをどのようにしていくのか。単純に金銭的支援などをすればよいというものではなく、個別に考えていかなければいけません、その点が一番難しいと思います。

◎部会員

民間にやってくださいと言っても、事業の実態がわかると、とてもではないができないということになる。市は、ある程度事業として成り立つまで支援しないと、民間には広がっていかないと思うのです。そこを市はどのように考えているのかという気がしてなりません。

◎副部長

口を挟んで申し訳ありませんが、今後10年間の計画期間中には、事業者等との定期的な打ち合わせなどを開催するなど、民間の課題などを市も共有しながら進めていくということもできると思います。

ちなみにこれまでは、このような会議は開かれているのでしょうか。

◎事務局

例えば、障がい者団体との会議などは定期的には開催されていますし、それ以外にも様々な団体との定期的な会議は開催されていると思います。しかしそれですべて足りているのかといわれるとそう言い切れませんが。

◎副部長

それであれば、障がい者団体との会議で生活に支障のある要望などは、今始まったものではないのにそれが全然解消されていないというのは、議論の内容がしっかり活かされていないのではないのでしょうか。

◎部会員

福祉事業については、皆さんも知らなかった話だったと思いますが、私はこの事業で市に支援してほしいという話をした訳ではないのです。

ただ、利用者の賃金を支払っていかなければいけないので、いろいろな作業を受注したいと思い、新規顧客の獲得も進めています。

また、市も商品の購入などをしていただいておりますが、単純作業や環境整備などの業務を少しでも、福祉事業所に振り分けていただけるとありがたいという気持ちはあります。

◎部会員

近隣のまちでは、障がい者団体が庁舎の清掃を請け負っています。登別市は、市内施設1か所に1名だけ短時間で入っている状況です。以前は2名だったのに減らされた状況にあります。

◎部会員

先ほどの話のとおり、我々も何でも市にお願いするのではなく、市に実態を報告し、状況を把握してもらいお互いのやるべきことなどを協議する必要があると思います。

◎事務局

市内施設の清掃の件ですが、市の直営から管理方法が変更になったことによります。

今は、民間活力による運営となっていることから、管理方法自体が変更になり、清掃も経費節減のため自賄となっているようです。

◎部会員

先ほども話しましたが、近隣のまちでは、障がい者団体が庁舎清掃を一手に請負い、その委託料で事業を組み、団体の運営補助をいただかない運営をしています。

◎部会員

補助金ではなく、自分たちの力でやっていきたいということなんです。業務内容によっては、障がいのある方のほうが丁寧な場合もあります。

◎事務局

そうですね。一生懸命仕事をこなそうという気持ちは十分伝わります。

◎部会員

これとは別に、市の施設などに自販機などを設置するのも、他の法律との兼ね合いもあるのですが、障がい者団体でも設置できればと思います。

◎市庁内部会部会長

昨年度から、法律に基づき、市が障がい者施設等からの物品等の調達に関する方針を作成することになっております。

その中では、簡易な役務の提供も記載していますが、他の法律においても、同様に業務委託等を推進することとなっており、その兼ね合いは難しい状況にあります。

◎部会員

少し障がい者の就労の話に偏っていますが、首都圏では高年齢者の就労が幅を利かせ、若年者の仕事が減っているという現実があるようです。

◎市庁内部会部会長

皆さんに議論していただく、この第1章には、障がい者の就労だけではなく、今、話があった高年齢者の就労も検討することになっています。登別市くらいの規模では、市の業務を委託などするにしても、限られてしまうので厳しい状況にあると思います。

◎部会員

行政はどこまで行っても、平等に対応しなければならないので、「これだけは特権で」ということにはならないので、公平に対応していただければよいと思います。

◎事務局

障がい者団体でも、これまでの実績を基に、自分たちから「この施設の清掃は可能か」などと、自分たちからもセールスする必要もあるのではないのでしょうか。

◎部会員

そうですね。やはり自分たちから動くことも不足しているかもしれないですね。

◎部会員

実際に市の大型施設の清掃業務も相談してみましたが、ダメでした。

◎事務局

初めから全ての業務を請け負うのではなく、その一部分などを請け負うなど

いろいろ方法はあると思います。

◎副部長

今私たちは、市の福祉に関する総合計画の策定に携わっています。このような細かな問題を考えることは、策定にあたり必要なことだと思います。

◎市庁内部会部会長

話を小地域ネットワークに戻してよいでしょうか。

ボランティアで金銭の提供なく地域福祉を実施する小地域ネットワークの動きの中で、介護保険制度の改正に伴い、デイサービスやホームヘルプを事業者ではなく、町内会や自治会でも可能ではないかという国の考え方があります。

これまで事業者を支払っていた給付費を市町村が決める事業費として支払うというものです。

これに伴い、現在市町村で悩んでいることがあり、これまでも地域でボランティアで見守りなどをやっているのにさらに負担が出てくること、またこれまでデイサービスなどを生業としていた事業者の問題などがあります。

登別市は今後、小地域ネットワークが構築されていくに伴い、介護保険制度においても核になってくるのかなという気がしています。

また、障がい者団体に限りませんが、自分たちでできることなどを報道などでアピールするなど、自分たちからも仕掛けていってはどうでしょうか。

◎事務局

市は、全体のバランスをとりながらやっていかないといけないと思います。偏るのは良くないですね。

市民からの要望なども粘り強く言い続けていくことも大事だと思います。そしてお互いが汗をかく必要があると思います。

それでは、話は尽きないと思いますが、地域福祉の考え方のまとめに入りましょうか。

◎部会員

小地域ネットワークにスポットが当たっているようですが、これとの兼ね合いですかね。

◎市庁内部会部会長

範囲が広いですね。高齢者や障がいのある人、ひとり親、医療や健康の話、男女共同など、福祉分野は本当に範囲が広いです。

◎部会長

話は本当に尽きませんが、地域福祉について考え方をまとめましょう。

◎事務局

今回この「地域福祉の推進」や、「地域を支える仕組みづくりと福祉ネットワークの充実」については、大体書き方はよろしいのではないかとということでしたが、本日の検討で、「もっと気持ちを盛り込んだ文言にしたほうが良い」とかということであれば、文案を考えるまでではなくても、どのような気持ちで取り組んでほしいだとか、福祉サービスを受ける側も頑張らなければならないことや、市もそれをしっかり踏まえて温かい気持ちを持って対応するなど、各部会員で考えてきてもらい、この部分についての検討を終了したいと思います。

また今後の流れについてですが、現在の予定では、計画自体は平成27年の12月議会に上程しようと考えています。一見まだ時間があるように思いますが、市民からの提言は、平成27年2月までにまとめる必要があります。そのためには、今やっている体系図は年内で見終わる必要がありますので、みなさんよろしくお願いします。

◎副部会長

スケジュールも大事ですが、このような会議で市と市民が生身で議論している経過が大事だと思います。その思いを文章にしたら、おのずと提言できると思います。今までになかった手法の市民会議だと思いますので。

◎部会長

それでは、地域福祉の部分で変更や伝えたい思いがあれば、次回までに各自考えてくることにします。

次回は9月17日（水）18時30分から開催しますが、会場は後日事務局からの通知で確認してください。以上で会議を終了します。ありがとうございました。